

人生の夏休みとも言われる大学生活をどう過ごすか

経営情報学部 4年 細川 拓海

「大学生活は人生の夏休み」そんな言葉を耳にしたことがある人は多いと思います。この言葉にどのようなイメージを持っていますでしょうか。大学入学前の私は人生の夏休みと聞いて、4年間自由に遊んで過ごせる、いわば「学生の夏休み」を想像していました。大学4年生となった現在、大学生活を振り返ると「人生の夏休み」の意味を自分なりに解釈することができるようになりました。自由に時間を使えるからこそ、自分に時間を使い自己価値をあげることでできる期間であると考えています。

私が多摩大学で過ごした大学生活は、今まで経験してきた学生生活以上に心境の変化があり、大きく成長することの出来た充実した大学生活でした。私が成長できた要因は大きく2つあります。

まず第1に「恵まれた環境」です。多摩大学には寺島学長直轄のゼミナールであるインターゼミの他、充実したアクティブ・ラーニング(AL)プログラム(※)などがあります。そのような環境で「文献調査とフィールドワーク」の重要性を理解することが出来ました。中でも飛騨高山ALプログラムでは実際に飛騨高山、久々野町を訪問し、その場の雰囲気や空気に触れることで写真だけでは理解することの出来ないものに触れることができた経験から、文献調査だけでは得られない解決策・ヒントを得られることがわかり、現地の声を聞くヒアリングを行うことの大切さを身に付けることが出来たと思います。また周囲の方にも恵まれていました。専門性を持った先生方のお話や適切なアドバイスを送ってくださる先輩方、共に切磋琢磨できる同期などが参加して下さっていたことも成長の大きなきっかけでした。

成長できた要因の第2は「行動力」です。どれだけ恵まれた環境下にいたとしても積極的に参加しなければ、いわば宝の持ち腐れとなってしまいます。確かに、新しい環境に飛び込む際、奥手になってしまうこともあります。実際私もインターゼミやALプログラムに参加する

にあたり悩んだ時期もありました。しかし参加することで多くの刺激を得ることが出来ました。新しい環境に飛び込むだけでなく、どんな些細な事でも行動することが重要であると考えています。行動を起こし取り組んだ先に成長のきっかけがあるのではないのでしょうか。皆さんにもぜひ行動力を持って恵まれた環境である大学生活を共に謳歌していければと思います。

最後になりますが、この機会に4年間しか無い人生の夏休みをどのように過ごしてきたのか、どのように過ごしていくのかを考えてみる時間を設けてみてはいかがでしょうか。私は大学生活を卒業する日に胸を張って、最高の人生の夏休みを過ごし、自己価値を上げ、成長することができたことと断言するためにも、残り僅かとなった大学生活を最大限有効活用し更なる成長を遂げたいと考えています。

(※) アクティブ・ラーニング：一般的に「学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法」



悩んだ際には趣味である和太鼓で気分転換



飛騨高山 AL、現地の中学生とブレインストーミングを行っている様子



インターゼミ(多摩学班)の様子

4年間を通じて一番伝えたいこと

グローバルスタディーズ学部4年 井原 隆登

私がこの学部で過ごした4年間で一番伝えたいことは、どんなプロジェクトやイベントにも自ら進んで参加してほしいということです。積極的に参加することで、社会人になってこの経験は生きてくると考えています。

私は、1年生の時に大学の留学プログラムでニュージーランドに1ヶ月ほど留学をさせていただきました。これは、自身の英語力を向上させるために参加しました。もともと、アメリカに住んでいたこともあり、英語がもっと上手くなりたいと考えていたためです。また、地域とのプロジェクトで多言語メニュー作成支援プロジェクトにも参加をさせていただきました。このプロジェクトでは地域の飲食店やお土産店のメニューを様々な言語に翻訳するというものです。この活動を通じて培うことができたものは、言語力はもちろんですが、コミュニケーション力です。店舗にアポを取る作業も自分たちで行いました。電話でのアポとりがほとんどでしたが、お店の責任者と電話で話すことができ、社会に出た際に役に立つと思っております。

このような地域の方と協力して行うプロジェクトやイベントは非常に多いです。ANA主催の温泉ガストロノミーウォーキングでは、地域の方や他大学の先生方や学生と協力してイベントを企画・運営し、成功させることができました。他大学の学生や先生方とも交流することができ、自分の交流の場が広がるというメリットがあります。

私は現在4年生ということもあり就職活動中です。様々な企業の説明会や面接を受けている中で、必ず学生時代に頑張ったことというのは聞かれます。そのため、学内外問わず、様々な活動に参加してきたということを話すと、すごくチャレンジできる人なのだなという好印象を持っていただくことができます。このSGSという学部には挑戦できる機会が非常に多く転がっています。4年間という大学生活は人生の中で楽しむことができる最後の時間であると思っております。4年間という期間は、長いようで短いです。大学生活をより楽しむために、様々なことにぜひともチャレンジして欲しいと思います。

この4年間でチャレンジさせていただけたことは、私自身非常に感謝しており、このSGSという学部に入ってよかったと思っております。この4年間で経験したことを活かし、社会に出てもチャレンジし続けていこうと思います。



温泉ガストロノミーウォーキングでの活動



寒川町（神奈川県高座郡）ひまわり畑での活動